

地水火風

牧野 恒一

4月18日に北京で大規模な病院火災があり、多くの方が亡くなった。現場が中国とあって報道制限が厳しく、関連SNSも次々に削除されるなどして情報が得にくい。日本、日本のマスコミではすぐに報道されなくなっ

た。だが、この火災は、避難困難者が多い病院火災という側面と、工事中の火災という側面を持っており、日本の関係者にとっても参考になる。本稿では、各国のネット情報を総合した情報をもとに、これら二つの側面からこの火災が示唆することについて考えてみた。

北京長峰医院はかなりの大きな総合病院で、東棟と西棟からなっているが、火災は8階建ての東棟の5階（4階という報道もある）で発生した。公式発表では、出火原因は改装工事中の塗料の揮発性物質に工事作業（溶接又は溶断）の火花が引火したのではないかとされており、その火が高年齢の入院患者が多数い

る病棟内に拡大したようである。この火災で、工事関係者と病院長など12人が逮捕された。

何故多数の死者が出たのか？

この火災の煙の発生量は相当多く、当初ネット上では、逃げ遅れた人が窓から降ろしたシートをつたって下方の屋上に避難したり、空調室外機の上に避難したりしている動画が多数出回っている。当該病院の平面図を見ると、建物面サイド付近にそれぞれ屋内階段があるが、階段を防護する防火区画はないように見える。これでは、病院でなくとも、火災の煙が階段に入れば階段からの避難は不可能になり、窓から逃げるしかないだろう。まして高年齢の入院患者が多い今回のケースでは、窓から逃げる体力のない人は逃げられなかったというのではなからうか。日本でも、69年までは階段等を防護する「堅穴区画」の規制がなかった。同じような状況

④火災建物内部の映像

を見る限り、避難路に木材など可燃性の材料がかなり使われていること。また、長峰医院は中国内に20程度の病院を持つ大病院グループに属する私立病院だが、過去に7回、医療関係の行政処分を受けており、医療無視のもうけ主義という批判もあったようだ。今後、訓練や防火関係施設の維持管理など、他の事項に

北京の病院火災

①使用中の病院で、揮発性の溶剤を使う塗装工事や火気を使う工事など

の発火危険の高い工事が行われたこと

②これら互いに相性の悪い工事が近接した場所

で同時に行われたこと

③工事現場で発生した火災の拡大防止策が不十分

で、病院内部の火災に発展してしまっただけ

④火災建物内部の映像

を見る限り、避難路に木材など可燃性の材料がかなり使われていること。また、長峰医院は中国内に20程度の病院を持つ大病院グループに属する私立病院だが、過去に7回、医療関係の行政処分を受けており、医療無視のもうけ主義という批判もあったようだ。今後、訓練や防火関係施設の維持管理など、他の事項に

④火災建物内部の映像

を見る限り、避難路に木材など可燃性の材料がかなり使われていること。また、長峰医院は中国内に20程度の病院を持つ大病院グループに属する私立病院だが、過去に7回、医療関係の行政処分を受けており、医療無視のもうけ主義という批判もあったようだ。今後、訓練や防火関係施設の維持管理など、他の事項に